

# カルシユの足跡を追って

◇18◇

若松 秀俊

フリッツ・カルシユのと考えている。地上では「身体」と世界を経験長女メヒテルトの話や関連著書によれば、ドイツに起こった秘教的な種々の思想をシュタイナーが集成し展開した。この一連の体系を人智学と呼んでいる。冷静な意識をもって、思考と実践を通して自身の認識力を拡大し、通常の感覚ではとらえられない世界の認識を自指すものである。した

## 学問と著述

(下)

を深め、やがて自らの姿と世界とのかわり合いを認識し、真に自由で自覚的な参加者となるようになって、その過程は、神

とを次第に学び、世界を

『シュタイナーの人間観と教育方法』(広瀬俊雄著、ミネルヴァ書房)

この学習過程で、親や教師は適切な指導をする

必要があり、それによって子ども「精神」と「魂」は健全に成長し、

# 二人の娘に人智学伝える

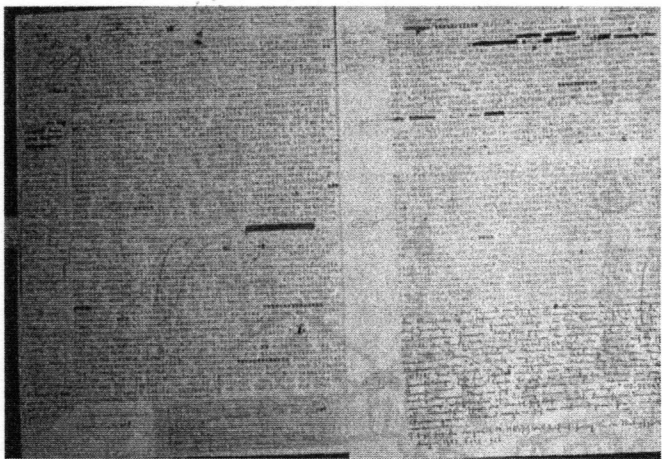
真の姿の認識に向けて発達の連続していくことが出来る、という教育思想にインナーに代表される思想

の流は決して無縁ではないし、フリッツが後に

日本で仏教や禅に大きな関心をもったのも納得

を斥け、心理

カルシユの未整理遺稿の一部



シュタイナーの教育理論は、誕生から人の生涯全体を実践の連鎖ととらえ、同時に、子どもの魂、本性の細部に配慮したものである。

したがって、単なる机上の理論ではなく、実際に数多くの優れた教育効果を生み出しており、内外にその実績が見られる。人智学のアメリカでの中心的存在であり、高年齢にあって今なお、独逸に勤(いそ)しむメヒテルトが、筆者と父フリッツとの縁を、仏教に

初めて設立されたが、ヒラー政権下では禁止された。第二次大戦後に、その学校が再開された。その後、一九八〇年代には世界各地に設立され、発展を上げて現在に至っている。日本ではシュタイナー学校と呼ばれている。この理論に心酔しているカルシユ夫妻は、できる限り自分たちの二人の娘に人智学を伝えようと努めた。長女はやがてこの分野の専門家となり、二女は自由ヴァルドルフ学校で学び、同じ学校で実際の教育に当たり、本年定年を迎えた。シュタイナー理論に基づく学校の先生となることは、この教育の実践による自らの精神的深化の一つととらえることができるからである。

(東京医科歯科大学大学院教授) 文中敬称略